いぶきはともに
向き合い続けます
IBUKI

夢よ もっと ひろがれ

vol.209
いぶきファミリー
会 報 誌

2022
めぶき

情報掲示板

寄付者御礼
いぶきファミリー会費を含みます

kinpa ginpa 金波銀波 no.2

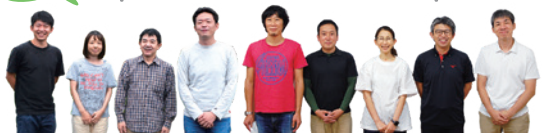
はやしもりお

無認可の共同作業所時代から、いぶきで働いていました。
[金波銀波]は、高校時代、学校新聞に書いていたコラムの名称です。いぶきの行く先が、穏やかな航海であるように祈りを込めて!

この四月より、いぶきの就労支援事業に「岐阜市リサイクルセンター」でのペットボトル選別の業務委託が加わりました。同時に新リサイクルセンターの新設に伴い家庭から出る「ごみ」の分別回収もスタートしました。今まで週二回の「一般ごみ」の回収日に加え「プラごみ」の回収日を別途設けたのです。私の家では「生ごみ」はコンポストで「たい肥」にしており、紙類は「雑紙」として町内の資源回収に出しているので、実際分別を行った結果、今まで出していた一般ごみの九割以上が「プラごみ」となり、一般ごみはティッシュペーパー、キッチンタオル、レシート類ぐらいで一番小さなレジ袋に入る程度の量でした。一般ごみが「プラごみ」扱いとなり、それ以外は月一回の回収で済みそうな量です。改めて現代の生活がプラスティック(石油)に依拠して成り立っているかを認識するとともに、町内単位で「コンポスト」の共同設置により生ごみのリサイクルを行えば、カラス除けのネット及びそれを設置・撤去する手間も省け、まさに究極の省エネリサイクルになると感じました。

編集委員です

わたしたちがつくっています



藤澤秀人　初瀬尾久美子　池田光巳　藤澤亮太　川瀬悟　山本昇平　山本友美　北川雄史　森洋三

夢よもっとひろがれ vol.209　4月発行
発行・編集：社会福祉法人いぶき福祉会

〒502-0907 岐阜市島新町5番9号
TEL：058-233-7445
メール：ibuki.m@ibuki-komado.com
法人サイト：https://ibuki-komado.com
ネットショップ：https://ibukistyle.com
ECサイト：https://ibuki-engawa.com

法人ホームページ

ネットショップ

もくじ

3　はじめに

4-6　仲間のすがた

7　連載：恩田聖敬が愛を語る

8-9　エンディングノートプロジェクト

10-11　わたしと息子といぶきと

12-15　物資の活動ストーリー

16　情報掲示板・連載：金波・銀波

作者の紹介

〇表紙のタイトル：白木祐さん
〇表紙のイラスト：澤田真貴子さん

題：菜の花とちょうちょ

はじめに

春になり新しい生活が始まった方も多いことと存じます。いぶきでは、3月29日にJR岐阜駅のショップ「ねこの約束」の12年の幕を閉じ次の一歩を踏み出すことにしました。ガラス一面を埋め尽くす「ありがとう」と綴られたカードに胸が熱くなり、私たちのささやかな営みがこの街の風景のひとつとして、たくさんの方の希望の灯になれていたことにホッとしました。

私たちは、誰もが安心して暮らせる寛容な社会を願っています。不安と対立が世界中を覆い尽くしかねない今、その思いは強くなるばかりです。弱い立場にある人に心を寄せ続ける丁寧な営みが人と人を結び、世界の平和にもつながると信じています。ご一緒いただければ幸いです。
2022年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

北川 雄史

ねこの約束のガラスを埋めた
メッセージの数々

仲間のすがた

篠原 貴史さん
しのはら たかふみ

ごんのしまカンパニー　加納優汰

季節の変化とともに

雪の日もコスモスは元気に活動中！！左が篠原さん、右が私です。

年に1度の大仕事！田植えです！！

毎日かご一杯の収穫！たくさん買ってね！

今回この記事を書かせてもらうこととなり、改めて篠原さんのことを考えると、私は彼を本当に頼りにしているんだなぁと思い返すことばかりです。夏場は仲間はもちろんのこと、スタッフも正直体力的にしんどい日があります。早いけれど今日は終わろうかといいたくなる日もありますが、汗をかきながら一生懸命仕事に向かう彼を見ると元気をもらえます。
私が篠原さんの部屋を担当することになったのが２年前。第一印象は私よりも作業早いなぁ…です。異動したての私は仲間たちに完全に負けており、仕事への姿勢に驚かされることばかりでした。すぐに用意していた仕事が終わり、次は？と言われてしまい、予定づくりに苦労したことを思い出します。コスモスの仲間たちは誰も異動したての職員に合わせてはくれませんでした（笑）

西部事業部にある、ごんのしまカンパニーは野菜の育成、販売を行っている部署です。その中のコスモスグループで活動している篠原貴史さんは、いぶきに来て７年目になります。
篠原さんは水泳のパラリンピックの強化選手に選ばれたこともある体力自慢の仲間です。出勤してからはスタッフと会話をしたり、隣のパレットの部屋に話したい相手を見つけに行ったりと、朝からとても活動的です。
コスモスは仲間が5人のグループで1年を通して畑活動を行っています。収穫の時立派な野菜ができたことをみんなで喜びあったり、自分たちの作った野菜がモレラ岐阜で販売されていたり、『Kouzo Gifu』や『てんぷら元』などの飲食店で取り扱ってもらうことで、自分たちの仕事が社会に溶け込んでいて、それが自分たちの給料となることを丁寧に伝え、がんばったねと言い合える仕事を目指しています。自然が相手の仕事ですから、天候によってはで当日の活動内容を変更することもしばしばあります。そのため仲間たちにとって見通しが持ちづらい思いをさせてしまいますが、当日の内容を分かりやすくするため、毎日朝夕の打合せで行き先、仕事内容を丁寧に伝えています。そんな職員の心配を払いのけるかのように、行き先を伝える前から「僕も行く！」と一番に声を上げてくれるのが、頼れる存在の篠原さんです。

みんなのスペース ふちっこメンバーズ

《カワセ／岐阜市》 僕はずっとギターが大好きです。ずっとやっててもなかなか上手くならなくて焦る時もありますが。けれど最近は人と自分を比べずにゆっくりやって、昨日までできなかった事が今日はちょっとだけできるようになっているという自分の小さな変化を楽しむようになりました。これからも楽しんでギターを弾きたいです。

芋を傷つけないように丁寧に

自慢のお米を収穫しました！

私たちが取り組んでいるのは農薬、肥料を用いない自然栽培農法です。
管理している畑は岐阜市近郊に6か所あるため、作業量がとても多く仲間の得意な仕事、長所を発揮しみんなが大いに活躍しています。
作業には草引き、種まき、収穫、枝切りなどがありますが、篠原さんは中でも草引きが得意です。農薬を使っていない畑の雑草の勢いは恐ろしいもので、春から秋は毎日雑草と戦っています。夕方になり「帰るよー！」と声をかけても、最後までしゃがんで仕事をしているのはいつも篠原さんです。そこには自分たちの大事な野菜が負けないよう、苗のまわりの雑草を全部抜き切ってから帰りたい！という思いと、彼は職員が忙しくしているのを気にしてくれて、終わらせて仕事を次に進めたいという優しい思いがあります。植えたての苗や出たての芽と雑草を見分けるのは決して簡単ではありません。彼はわからないときは隣に来ては「これは雑草？」と確認をしながら丁寧に取り組みます。種から芽が出て実になり収穫につながることを彼はよく理解していて、私が野菜の本を見ているとそばにきて、説明を一緒に読むこともあります。他の農家の方が使っていた作業がはかどる道具を見つけると、所長に買ってほしいとアピールすることもありました。
収穫時には、定められた適切なサイズを守りながら収穫することや、寒い時期には体力をとても使う溝を掘る仕事を一緒に取り組みます。このように、季節を通して自分たちの野菜作りをやりきる！という思いのもと、毎日意欲的に取り組んでいます。仲間たちには苦手なこともあります。それは当たり前のことだと思います。その中で彼らは得意なことを武器に農作業を通して社会の一員として力いっぱい働いています。これからも彼にはがんばったね！やりきれたね！と自分たちで胸を張れる仕事を続けていくこと。そして野菜を買ってくださる方々においしかったといってもらえることで、彼自身が自信を持てるようになることを願っています。
仕事を通して社会の一員としての誇りを一緒に積んでいきましょう！

みんなのスペース ふちっこメンバーズ

《シュークリームマン／岐阜市》 いぶきで農作業に関わるグループの職員です。（誰でしょう）今ハマっていることは『ペアリング』です。お酒の『ペアリング』は世の中のブームですが、私は『ティーペアリング』です。お茶や紅茶と食事またはスイーツとのマッチングを見つけて出会い、楽しめることが面白いです。コロナ禍での楽しめる趣味です♪

心のバリアフリーナビゲーター

恩田聖敬が愛を語る！

vol.8 障害愛

恩田聖敬（おんださとし）1978年生まれ。岐阜県高富町出身。京都大学大学院航空宇宙工学専攻修了。J リーグ・FC岐阜の社長に35歳で就任。現場主義を掲げチーム再建に尽力。就任と同時期にALS発症、2015年末に辞任。翌年、『ALSでも自分らしく生きる』をモットーに（株）まんまる笑店を設立。講演、研修、執筆等を全国で行う。2018年8月に、気管切開をして人工呼吸器ユーザーとなる。2児の父。

BLOG

FB

私はALSにある意味で感謝しています。もちろん全面的には感謝などできません。ALSという病気は私から多くのものを奪い去りました。妻との語らい、家族だけでの時間、子どもたちを抱きしめること、食べる幸せ、そしてFC岐阜社長の座などなど…。挙げ出したらキリがありません。けれども奪い去られたものもあれば得たものもありました。それは障害者の世界を深く知れたことです。

私はALSになる前の35年間、幸か不幸か障害者とは無縁の生活を送ってきました。また両親や兄弟も健在で他人を介護することにも無縁でした。私はALSになりFC岐阜社長の退任をきっかけにブログ、フェイスブック、ツイッターを始めました。社会とつながりたい一心でした。よってもしALSにならなかったら、私はリアルコミュニケーションを全てとして、ブログを始めとしたSNSをやってません。ということはALS後のオンラインに端を発したほとんどの出会いはなかったものになっていたはずです。そして、健常者の世界のみの恥ずかしいくらい狭い世界の常識をこの世の全てと思い込み、永遠に無知のまま大手を振って生きていたことでしょう。

ALSは障害者の世界に生きる方々と私をつないでくれました。そのつながりから私は途方もなく多くのことを学びました。数多くの心から尊敬できる障害当事者や支援者と出会うことができました。私の以前の常識を木っ端みじんにしてくれたのはALSです。障害当事者になったおかげで本当のバリアフリーとかインクルーシブな世界についてうわべじゃなく考えることができるようになりました。これは『人間的成長』なのかなと今は思います。もとい思えます。私は学生に「障害者の世界へ『留学』しませんか？」という口説き文句で見学に誘います。ALSは私に日本には障害者の世界という全く別の国があることを教えてくれました。よってある意味ではALSに感謝しています。

いぶきの世界に足を踏み入れる私

【岐阜市クラウドファンディング型ふるさと納税を活用したNPO法人等応援事業】

わが子の幸せをたくす
エンディングノートプロジェクト

障害者の『親なき後』のためにできること

西部事業部　森 洋三

2021年10月11日～2022年1月8日の90日間の募集期間で
ふるさと納税の制度を利用して寄付募集を行いました。
期間中に226名の方から4,044,000円のご寄付をいただきました。
プロジェクトの進捗状況をお知らせします。

親なき後問題はすぐそこ

法人化してから28年たつ中で、みんなが年を重ねました。そして、たびたび親御さん自身が体調を崩して「こどもを看ることができないから、どうしよう」という相談をもらうようになりました。バタバタとショートステイや他の家族の支援などでつなぐ中で、親も仲間もとても不安な生活に巻き込まれていき、時には苦しい選択を関わる人みんなが迫られます。こんな状況がわかるから、しばしば「うちの子より1日でもいいから長く生きたい」という悲しい親の声を聴きます。
法人設立より、私たちはたくさんの人と協力して歩んできました。親なき後の問題はとても大きく複雑ですが、この悩みもかかわる人たちと言葉にして整理していくことで解決につながるのではないかと思いプロジェクトの呼びかけを開始しました。このプロジェクトはエンディングノートをつけていく過程でみんなで親なき後について考えていくものです。

寄せられた反響

コロナ禍での活動となったため、活動の多くはメールやオンラインが中心になりました。最初はエンディングノートプロジェクトへの反応がとても不安でしたが、開始直後より、いぶきの保護者からも「ぜひやってほしい」「わたしも困っていた」などたくさんの共感と応援をいただき、とても心強く活動を進めることができました。
ウェブ上やメディア取材やイベントなどで多くの方が現在の気持ちを語ってくれました。2021年11月22日に法人設立1万日を迎えるにあたっては、ありがとうを伝えるというテーマでオンラインイベントを行い、ここでも保護者の方に現在の気持ちをお話しいただきました。わが子に対する大きな愛情と、だからこそ抱えている不安とその中でも前向きにできることを模索しているのを感じ、『親なき後』についてみんなと話し合いながら向き合っていきたいと思いました。
また、12月16日にはエンディングノートのつけ方のオンライン学習会も行いました。10日間ほどの募集期間でしたが、ご家族、福祉関係者など90人を超える方からお申込みいただき、親なき後問題に様々な方が困っていたり、関心があることを感じました。学習会で大切にしたいことの確認と肩ひじ張らずにエンディングノートを作りたいと感じました。
活動を通じてたくさんのメッセージをいただき、このプロジェクトを進めて行くことの大切さを改めて感じました。

藤井奈緒さんをお招きしたオンライン学習会の様子

今後のプロジェクト

親なき後についてともに学ぶ場を開きます

成年後見、財産管理、生活の場、サポートする制度などテーマを学ぶ場を設けて直面する悩みと解決策を出し合っていきます。参加する方々と交流して、大きな課題を分解して具体的に考えます。

親なき後の調査・研究を行います

手記やアンケートをお願いし、ご家族より聞き取りをして事例を集めます。そして、共通の課題と解決策をまとめ、地域でたくさんの方がかかわることで解決するべき問題であることを明らかにします。

エンディングノートを一緒に作ります

希望する家庭にエンディングノートを配布し、本人・家族の皆様とともに作っていきます。ノート作成には時間とエネルギーがいります。ワークショップを開催してともに作り、一緒にお話を聞きながら作成を支援することもできます。

報告集、ウェブページを作ります

得られた問題点や解決策など、実例を交えて公開し、同じ悩みを持つ方々に利用していただくとともに、地域の方々に親なき後問題がみんなの大切な課題であることを周知します。誰もがより手軽にエンディングノートが作れるようにオンラインにて公開します。

改めて、たくさんの方のご支援本当にありがとうございます。本年度活動を継続して、親なき後問題に取り組んでまいりたいと思っております。今後ともご協力よろしくお願いいたします。

みんなのスペース ふちっこメンバーズ

《れんげの花／岐阜市》ラブラドールを飼いはじめました。そこで行方不明者の捜索ができるように、おやつを1メートルおきに並べて足跡をたどる練習をしています。おやつ大好きなので喜んでやるのですが、足跡をたどらずにとばすことも多く、先は長いです。

シリーズ

わたしと息子といぶきと

いぶきに通う仲間の親さんの手記。わが子の生い立ち、
これまでのことを振り返って、エピソードや自身の想いを綴っていただきます。

吉田　博文（吉田光佑さん父）

光佑は平成7年7月13日に誕生しました。出産は、きわめて順調で、五体満足の体重は3590ｇありました。その後、光佑は順調に育ってきました。しかし、その年の11月21日午前突然病魔がおそい、呼吸が止まってしまいました。すぐに救急車を呼び、中濃病院、そして長良病院へと搬送されました。

家族でお出かけが好きでした

牧歌の里にて散歩中！

その病名は、乳幼児突然死症候群ニアミス、極めて危ない状態でした。入院2日目には、人工呼吸器がつけられました。9日目になった時私は、主治医の杉本先生に呼ばれ、光佑の病名の説明を聞きました。その内容は、「人工呼吸器をつけた意識のない状態は、この先何年、何十年と続きます。覚悟を決めて下さい。この話は奥様にも必ず伝えて下さい。」とのことでした。この時私は、この世のどん底にたたきつけられたような気持ちになりました。こんなこと妻には絶対言えない。私は無意識のうちに車を走らせ病院を出ました。泣きたい、どこかに車を停めて泣きたい、そう思い、ある路地を曲がり路肩へ駐車し、30分いや1時間ほど泣きました。やがて気づくと、その場所は長良天神神社の参道でした。そして気持ちが落ち着くと、車を降りて、長良天神社に向かいました。私は手を合わせ、目を閉じて一心に光佑の事を祈りました。

するといくらか後、私の脳裏に光佑の顔が浮かび上がりました。しかしその頭はその時の病状と一緒で大きく腫れあがっていました。すると次の瞬間大きな牛4頭が光佑の廻りに近寄ってきました。その牛は拝殿内左右、そして、拝殿外左右の4頭でした。そのまま祈り続けると、4頭の内の1頭（拝殿内左の牛）が光佑に近寄ってきました。その瞬間、光佑の頭をすべて覆う程の大きな舌で、頭をペロッと舐めました。すると光佑の腫れ上がっていた頭が元通りに戻っていました。

24時間テレビで俳優の加藤晴彦さんと家族で

私は大きな勇気と希望をもらいました。そして私は、妻に主治医の先生の話、そして長良天神社の牛の話をしました。妻は、泣きながら大きくうなずいてくれました。
すると、次の日の朝、光佑の脳圧が下がり、自発呼吸が戻ってきました。そしてなんと、人工呼吸器が外されました。その後は徐々に病状も快方に向かってきました。数年後光佑のお参りに長良天神社へ参拝に行きました。4頭の牛にお礼をし、まじまじと牛を見ると、なんとその牛は赤ちゃん牛を抱いていました。世界は違えど親の子を思う力がひしひしと伝わりました。改めてありがとうと手を合わせました。
現在光佑は26歳。毎日元気に第二いぶきに通っています。話すことも、歩くこともできませんが、大きな笑顔が作れる素敵な社会人になりました。たくさんの人に支えられながら、これからも楽しく過ごしていってほしいです。

乗馬の全国大会に参加！真剣な表情です

小川さんと葉っぱちぎり！満面の笑顔です

みんなのスペース ふちっこ メンバーズ

《こんちっち／岐阜市》12年前、伸ばしていた髪を剃った朝「パパの髪どこいった？」と私の鞄の中を探し回った娘も高校生。コロナ療養中にここぞとばかり再び伸ばし始めて2ヶ月。まだ何のコメントもない。ちなみに職場でもまだ誰からもコメントがない。このまま剃っても、誰にも何にも言われない気がして剃るに剃れない。マスクのせいじゃない気がする。

いぶきの活動ストーリー
IBUKI Story

カタログ販売
『物資プロジェクト』

仲間のうたカレンダー

数字でみる

○カタログ販売年数 開始:1984年 37年間

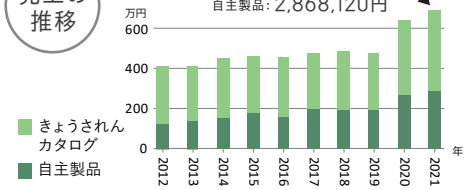
○自主製品販売年数 開始:2003年 18年間

○参加団体数 昨年度 52団体

○注文者数 昨年度 326名

売上の推移

昨年の売上が過去最高に！
全体: 6,866,370円
自主製品: 2,868,120円



みんなのスペース メンバーズ ふちっこ

《ほっしー／岐阜市》いぶきの日光町で春の花壇を手入れしていたある日、Tさんが一言。「あー！こんな沢山の花に囲まれて死にたいなぁ」エンディングノートの取り組みにより身近に感じられているようですが胸がチクリ。でも「もっとたくさん咲かせないと足りないねぇ」と、まだまだ一緒に育てていきたいと思っています。

1984年から続くいぶきの販売活動

北部事業部　初瀬尾 久美子

いぶきではスタートしたころから「働けるんだ、僕たちも」を合言葉に仲間の仕事を大切にしてきました。現在ではかりんとう、招き猫マドレーヌをはじめ各事業所でお菓子や雑貨など魅力的な商品をつくりだし、日々仲間たちと職員が一緒になってモノづくりに取り組んでいます。その大切な商品を販売する機会、多くの人たちに知ってもらう機会として年に2回のカタログ販売があります。いぶきの仲間、職員はこの販売活動を“物資”と呼んでいて、毎回それぞれの立場で参加しています。

カタログにはラーメンやスープ、季節のお惣菜、お菓子などの食品をはじめ、Tシャツや雑貨※、子どもたちが喜ぶキャラクタータオル、冬には仲間のうたカレンダー※をはじめとした各種カレンダーなどが掲載されています。いぶきではこれらのカタログに加えて18年前から自主製品のカタログを制作して販売しています。このカタログにはいぶきの定番商品である招き猫マドレーヌやかりんとうはもちろん、普段販売していない商品やこれから販売してみたい！お客さんからの反応を聞いてみたい！と企画した商品、物資販売だけの取扱商品、担当者が厳選した仕入れ商品（乾物やお酒）などいぶきの今を知ることができるモノが満載です。

毎年好評の干支張り子。お酒の販売もカタログ販売だけ！

仲間と共にカタログをお届け。よろしくお願いします！

この活動では仲間たちは商品を作る、ということ以外に近隣の学校や団体にカタログを持っていってお願いしたり、注文してくださった商品の仕分け作業をしたり、配達したりと様々な形で参加しています。カタログや商品の配達に仲間が行くと、先生方が「どの商品がおすすめですか？」などと声をかけてくださって、仲間たちも自分たちが作っている商品を紹介したりとその場がパッと明るくなごやかな雰囲気になったり、「いぶきに通っている私の教え子がつくった商品を買わせてもらったよ」など嬉しいお言葉をいただくこともあります。何十年前の教え子を覚えていてくださって、いぶきで働いていることも知っているんだなぁと思うと嬉しいですし、特別支援学校でのボランティアをしていた職員のことを覚えていてくださって、がんばっているね

カタログの丁合作業をハローのみんなでしています。

と声をかけてくださったり、このような嬉しい出来事やエピソードをいぶきに帰ってきて職員や仲間たちと共有することでまたさらに喜びが増え、外部への販売活動をしてきてよかったなぁと思う瞬間です。2年前からコロナ禍になり、仲間が外へ出ていく機会や外部の方との交流がぐっと少なくなってしまいましたが、物資の取り組みでは学校の先生方や協力してくださる団体さんと交流する中でこのような嬉しいエピソードが毎回生まれています。また、毎回のカタログやいぶきの商品を楽しみに待ってくれていると思うと仲間たちも職員も販売に向けて気合が入り、実際に注文がたくさん入った週は、「こんなにたくさん作らないかんで大変だー」と言いながら、仲間の顔は生き生きと嬉しそうです。

きれいに入れてお客様に届けます。

この販売活動の収益はすべて仲間の給料（ボーナス）となり、仲間の生活を支える大切なお金になっています。長く続くこの活動を支えてくださっているファミリー会員の皆様、病院関係者様、学校の先生方、その他団体様、そして保護者の皆様、本当にありがとうございます。

※Tシャツや雑貨、仲間のうたカレンダーはきょうされん会員事業所を利用する障害のある人が描いた作品をリデザインした、きょうされんオリジナル商品です。

物資の歴史をたどる

長い歴史を持つ、いぶきの「物資」。
その活動の草創期に多大なご尽力を
頂いた大橋純子さんに
お話を伺いしました。

聞き手：川瀬悟　大橋純子さん　聞き手：原哲治

できることを持ち寄って、信頼関係を築く場所。

西部事業部　川瀬 悟

物資に関わることになったきっかけ

いぶきが開所して間もなくの頃に、当時施設長だった稲葉さんからの声かけで「大橋さん、計算得意やろ？集計やってくれへんか？」「算数苦手ですけど大丈夫ですか～？」と始まりはそんなやり取りでした。

その後、大橋さんは商品の仕分け、教職員会館や特別支援学校、ご近所へのチラシ配布、発注、手作業による会計など全ての業務に精力的に携わることになります。

印象に残っている出来事

辛いとか大変という思いは全然なくて。それよりも覚えているのは皆様の温かい言葉です。チラシを配りにいくうちに、特別支援学校では「今年もそんな時期が来たね。一輝くんは元気？」と息子のことを気にかけて頂いたり、納品する商品を車から下していると窓から「今そっちに取りに行くからそこで待っててね！」と気遣って頂いたり。そういう人と人とのつながりをたくさん感じることができました。

どんな想いで関わってこられたか、改めて伝えたいこと。

とにかく少しでもお役に立てればという一心でした。当時は重度の障害を持っている人は行くところがなくて。息子の一輝もそうですけど。何もないところから彼らの居場所を一緒に作ってきたという思いだったから、気持ちで動いていました。障害を持っている人たちにはやっぱり下支えが必要だと思っています。そうやってみんなで支えていくには、誰かに頼りっぱなしではなく、みんなそれぞれができることをやる、というお互いの信頼関係が大事です。物資はそんな信頼関係を築く場所だったとも思います。

最後にどうしてもお伝えしたいのは感謝の言葉です。教職員の方々や、過去のいぶきの職員さん、とにかく息子の一輝に関わって頂いた全ての皆さんにお礼が伝えたいです。
「ありがとうございます！」

みんなのスペース ふちっこメンバーズ

《ともすけ／岐阜市》麻雀にハマっています。亡き父が家族で麻雀するのが夢だったようで、私を膝にのせて独特のオノマトペで面白おかしく教えてくれました。子どもの頃はあまり気乗りせず付き合っていましたが、今になり面白さに目覚めました。次の一手を考える時、父のコトバが頭をよぎり少し和む瞬間もまた良いものです。

これからの物資について対話

物資にも深く関わる、いぶきの事務室で
働く様々な役割りを持つ職員が集まって
物資のこれからについて、対話しました。

左上から、岡、西澤、山本、牛丸、初瀬尾、和田、岩本、井上、山中、北川

伝統ある取り組みを柔軟に変化させて未来へ。

西部事業部　山本 友美

事務室で働く私たちは、カタログ制作、注文、商品発注、仕分け、お届け手配、集計まで、現場との架け橋になって精力的に取り組んでいます。これまでの経験から、良いところ、課題などを話し合い、未来に向けて新しい発想をしてみました。

時代の変化とともに、物資の活動をどんな風に変えていくと良いか。

- 仲間の給料、生きがいにつながること
- 様々な団体や個人との協働
- 物資を利用している方との対話
- 遊びの要素を取り入れる
- 学びになる要素を取り入れる
- SDGsやエシカルをテーマに
- 声の掛けやすい仕組み

これらのアイデアをもとに深掘りしました。

●遊びの要素を取り入れるのは面白いと思う。買ってくれる人にスタンプやチケットなど、お得やお楽しみをつくって楽しく参加してもらいたい。

●SNSで人気なカフェでコラボとかしてみたい。そこでいぶきのカタログを配ったりして、若い人やこれまでと違った輪が広がるのと嬉しい。

●例えば学校と一緒に何かできないかな。子供たちが描いた絵がパッケージになったり、どんな味のマドレーヌやかりんとうを食べてみたい？など、これまでのノウハウを活かして、コラボ商品がつくれるのでは。

●カタログは情報が多く選ぶのに大変な面もあるので、ベストセレクトみたいなものがあってもいい。

●SDGsやエシカルの切り口で伝えたい。大切にしたい活動と思ってもらえたら嬉しい。

●気軽に、声掛けができる仕組み作り。メールやSNS、LINEなどで発信したり、抜粋した商品のみ掲載、注文ができるチラシや、QRコードで注文できるなど。

これからも、前向きにみんなで楽しむプロジェクトにしていきたいと思っています。
ご興味のある方は、ぜひお声かけください。
どうぞよろしくお願いします。

カタログ販売は、6月と10月頃に行っています。
ご希望の方は、お気軽にご連絡ください。
☎058-233-7445　平日：9:00～17:00　担当：井上